

香川大学教育学部 附属教育実践総合センターニュース

No. 19

平成16年7月21日発行

目次

H16年度センター事業について	1	研究プロジェクトについて	6
センター事業計画	2	公開講座・集中講座報告	8
附属坂出小学校研究発表会報告	3	センター研究会報告	9
附属坂出中学校研究発表会報告	4	寄贈図書・活動報告	10
フレンドシップ事業報告	5	センターからのお知らせ	12

特集 平成16年度教育実践総合センター事業について

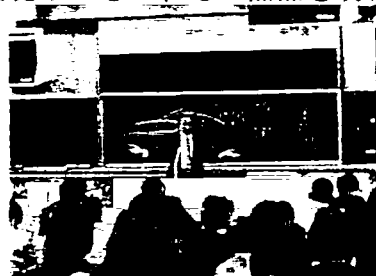
センター長 湯浅 恭正

平成16年度のセンター事業の内、研究プロジェクトは平成15年度からの2か年の継続研究をまとめる予定である。「不登校」「特別支援教育」「e-learning システム」「教員養成・研修」という個別の課題研究を通して、現代の教育論にどのような積極的な提起ができるかが問われている。また、特別プロジェクトとして掲げた「学力評価」「学校評価」の2テーマも今後の教育実践の行方を示唆するための視点が提起できることを期待したい。

全国的な研究・実践の動向を視野に入れながら、地域の課題を取り上げ、地域に還元できる成果となるよう研究を進めたいものである。今年も附属学校園の先生方はもとより、センターの客員研究員制度を活用し、県の教育センターや公立学校の先生方のご協力をいただくことにしている。

これ以外には例年展開してきた事業を継続し、その質を発展させることが課題である。特に法人化時代に突入した今年は、これまでの事業をより厳密に総括・評価し、教員養成と研修、教育相談といった教育学部が担うべき課題に対してセンターとしてどう積極的に寄与することができるかを明確にする年でもある。公開講座や公開講演会の開催はもとより、地域の教育的・研究的ニーズに即した事業として何を開発すべきか、その焦点を明確にし、6年間の中期目標・長期計画に迫る第一歩としたい。それを通してセンターの研究部門の再編など、将来に繋がる課題も俎上に乗せる年にしたい。

センター事業は全学部・附属学校園に関わる内容を持ち、それゆえに全学部・附属学校園の先生方に支えられて進めてきた。それだけに、いっそうセンター事業への注文をつけていただくことが活動の質的発展に繋がる。今の時代に求められる新鮮な企画を積極的にお寄せいただければ幸いである。



H15年度公開講演会の様子

平成16年度 教育実践総合センター事業計画

I 研究プロジェクト(2年目)

※ 個別プロジェクト

- 1 不登校を中心とした学校不登校児童生徒の実態調査と対応の在り方に関する研究プロジェクト
- 2 特別支援教育に関する研究プロジェクト
- 3 e-Learning システムの開発に関する研究プロジェクト
- 4 教育実践力の向上を図る教員養成・研修に関する研究プロジェクト

※ 特別プロジェクト 教育評価に関する研究プロジェクト

※ 研究会 教育実践総合センター研究会(年3回程度)

II 指導プロジェクト

1 教員養成

- (1) 「教育実践演習」「臨床援助の実際」「教育実践基礎演習(フレンドシップ事業)」の担当
- (2) 教育実践集中講座の担当
- (3) 情報教育関連の授業開講 ・ 教育工学 ・ 情報メディアの活用

2 教員研修

- (1) 研究会
 - ・ SCS 利用研究及び遠隔共同講義への参加 「授業実践研究」、「情報とメディア研究」、「教育臨床」
 - ・ マルチメディア研究会の開催 ・ 軽度発達障害研究会の開催
- (2) 講習会 ・ 免許法認定公開講座の開設
- (3) 研修生の受入・指導

3 教育相談

- (1) 教師のための相談活動(学習指導、生徒指導等)
- (2) 教育相談活動

III 教材・資料の収集・管理・共同利用

- 1 研究資料(他大学からの研究紀要等及び香川県教育委員会関連出版物)、教材(教科書及び指導書)等の収集・管理
- 2 データベースの構築(文献・教材)
- 3 教材、機器等の共同利用のための物品などの整備
- 4 遠隔教育システムの有効利用のための整備
- 5 学習コンテンツの開発

IV 研究活動の報告等

- 1 「香川大学教育実践総合研究」の編集
- 2 教育実践集中講座ノートの発行
- 3 フレンドシップ事業報告書の発行

V 広報活動

- 1 インターネットのサイト(ホームページ)の更新・管理
- 2 センターニュース(年3回程度)
- 3 教師教育用映像情報のVOD配信サービス
- 4 パンフレットの改訂・発行

VI 公開講演等の開催

- 1 講演会(公開)
- 2 教育実践総合センター講座(公開)

VII 関係機関との連携

- 1 研究・指導プロジェクトに関わる関係機関との連携
- 2 その他地域の各関係機関との連携
 - 1 香川県教育委員会教員研修への協力
 - 2 スクリーニング・サポート・ネットワーク(S.S.N.)事業への協力
 - 3 特別支援教育推進体制モデル事業に係る専門家チーム委員及び巡回相談員
 - 4 高松市教育文化研究所への研究協力

第88回附属坂出小学校教育研究発表会

5月27日・28日に開催された第88回教育研究発表会は、県内外から2日間で延べ800名を超える参会者をお迎えし、盛会裏に終えることができました。

今回の研究発表会では、『21世紀を切り拓く「確かな学力」の向上 —「思考力」の育成に向けて—』を研究主題に掲げ、各教科や総合的な学習の時間における「思考力」の育成とその評価、効果的な少人数指導の在り方について、目標レベル、単元レベル、授業レベル、評価レベルから、本校の取り組みについて提案しました。研究協議会では、本校の提案に対して、貴重なご意見やご示唆もいただくことができました。また、研究授業に先立って公開された朝学習も好評で、本校が開発した『「思考力」を育成するためのトレーニングシート集（小学校高学年版）』を、手にとって熱心に見入る先生方も多く、中には1人で数冊購入なさる方もいらっしゃいました。

1日目の午後は、東京大学名誉教授の小柴昌俊先生にご講演いただきました。2日目の午後は、大阪市立大学の木原先生、都留文科大学の鶴田先生、立教大学の奈須先生、香川大学の川勝先生をゲストにお招きし、本校研究部長の真鍋を交えて『「思考力」育成の決め手は何か』をテーマに、シンポジウムを行いました。

この教育研究発表会を通して、「思考力」を育成することの意義、教材開発と組織の在り方、「経験との結び付き」「思考様式の意識化、転移・活用」といった支援の視点を確立することができました。今後は、目標レベルや単元レベルの研究成果を踏まえた授業レベル・評価レベルを中心にして、さらに研究を深めていきたいと考えています。

研究発表会に際してのご指導、ご協力に対して深く感謝申し上げます。



平成16年度 附属坂出中学校教育研究発表会 報告

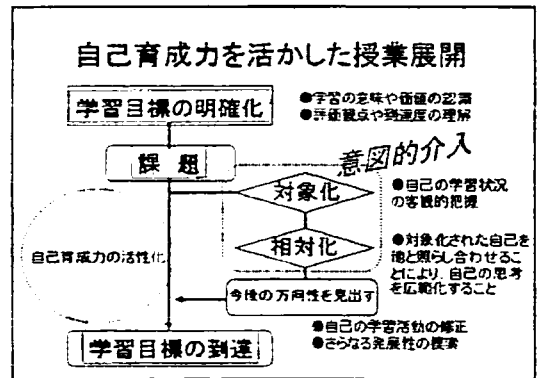
去る6月10日(木)、平成16年度教育研究発表会を開催しましたところ、500人を超える先生方を始め、各関係諸機関の方々にご参観していただき、ご意見・ご指導を賜り充実した発表会となった。また、講演者として筑波大学教授、田中統治先生をお迎えし、「小中一貫カリキュラムによる生涯学習力の形成」と題して、生きる力を育むための系統的、総合的なカリキュラム編成の在り方について取り組むべき課題をお話しいただいた。

今回は、「豊かな学びを育むトータルカリキュラムの創造 - 『自己育能力』の活性化を中心とした授業改革をめざして - 」というテーマを掲げ、文科省の研究開発学校の指定を受けた「5・4制の妥当性検証」と絡めつつ、教科・選択・総合への段階的教育課程の在り方と、中学校を4年間とした場合の教科カリキュラム案を提案した。特に、総合学習「まんてがん」においては、必修、選択で培われた教科の力が、生きる力として生活フィールドではどのように統合され発揮されるかを自己評価できるよう、ハワード・ガードナーが提唱する8つの知性に準拠して評価材を開発し、それをトピック的に授業で投げ込むことで、生徒が自らそれまでの学びを自己評価し、そこで得られた自己の状況に基づいた今後の方向性が見出せるよう新たな改革を試みた。そして必修や選択、道徳、特別活動等、学習場面にフィードバックできる回帰カリキュラムの構造を組み上げた。

また、トータルカリキュラムを稼働していく授業においては「自己育能力」という言葉で定義づけた、学習能力を活性化するための授業展開を追究し、自己の学びの状況を的確に把握する場面の「対象化」、そして学びの広範化を図る「相対化」を全教科共通の授業構築論として開発し、生徒自らが自己の学びを意義あるものとして認知した後に、今後の学習の方向性を見いださせ自ら学習を設計していく力を引き出すための学習構造を提案した。

今回の発表は、教科におけるカリキュラムの枠組みの構築と授業展開の方法論において大きな成果が得られたが、今後カリキュラムとして更に、道徳や特別活動、学校行事等とのリンクを実践を通して追究し、真のトータルカリキュラムの完成を目指すことを最重要課題として考える。

生きる力を育む学校教育カリキュラムの整備は、今や学校教育界の重要課題であり、それに伴う基礎基本の定着を必至とした教科学習、さらに学びの総合化を図る総合的学習の時間の充実において、今回の発表の提案性は高く、具体を伴った分かりやすい発表であったと、地域の公立学校はもとより全国的にも高い評価を得ることができたと、大会後の各関係者からの評価で実感している。



平成16年度 フレンドシップ事業 実施報告

学校教育講座 植田 和也

本学におけるフレンドシップ事業の実施は、平成9年度より授業科目「教育実践基礎演習」として実施されてきたもので本年度で8年目を迎えた。その経過の中で、フレンドシップ事業の柱を次の3点において実施し、毎年よりよい改善を図ってきている。

- 五色台少年自然の家における指導者講習会に参加し、野外教育活動にかかわる基礎的知識や技能を実践的に身に付ける。
- 附属小学校（高松・坂出）の野外体験活動に補助者として参加し、児童との触れ合いを通して、子どもたちの気持ちや行動を理解し、実践的な指導力の基礎を身に付ける。
- 生涯学習の指導的立場の方や野外体験活動の専門家、学校現場の教師からの指導助言を直接いただくことで、自分自身のこれからの教育実践にかかわる課題の探求を促す。

平成16年度の参加者は25名であり、主な活動内容は以下の通りである。

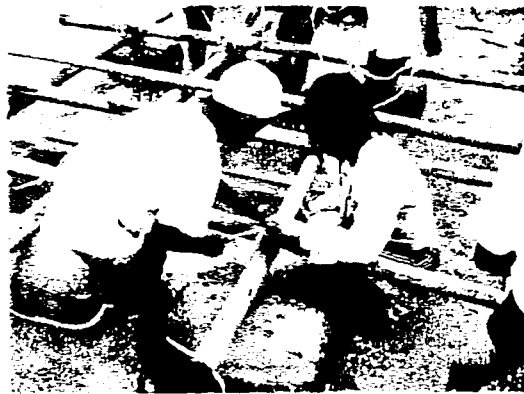
- ①オリエンテーション4月28日、②事前研修（関係機関の先生方を講師として）5月12日
- ③五色台少年自然の家（1泊2日）6月5日～6日、④附属坂出小の宿泊学習（屋島少年自然の家）（1泊2日）6月22日～23日、⑤附属高松小の宿泊学習（直島国際キャンプ場）（1泊2日）7月8日～9日、⑥シンポジウム7月28日

本年度は、昨年度とほぼ同様な内容での取り組みであったが、いくつかの点において改善を図った。例えば、「活動の記録」を作成し、各活動ごとに記録やメモができるように工夫した点である。さらに、それを有効に生かすために各活動に持参して、記入する時間等を設定したり、活動をふりかえり互いに意見交換できる交流の場を設けたりしたことである。それらのことを通して、学生の活動を通して得た印象や意識がより高まったものとして自己認識されたり、自分が感じた疑問等を仲間と共有することで多面的な見方をすることができたりしている。

来年度への課題としては、①より多くの学生に参加してもらえるような周知の仕方、②フレンドシップ参加後に公立学校の宿泊学習（学生ボランティア）へ参加を希望する学生への対応などがあげられる。これらの点について、検討を加えて改善を図りたい。



五色台少年自然の家：火おこし



屋島少年自然の家：いかだづくり

平成16年度 研究プロジェクトについて

※ 個別プロジェクト

1 不登校を中心とした学校不適応児童生徒の実態調査と対応の在り方に関する研究プロジェクト

昨年度は、県内小・中学校、及び適応指導教室（教育支援センター）に対する調査研究を行い、その結果を研究冊子にまとめるとともに、県教育委員会と本学部との合同による中間発表会（研究結果の公表、シンポジウム、講演）を開催した。

本年度は、昨年度の調査結果から得られた学校と適応指導教室の望ましい連携を推進する上での課題について検討し、それらを基に、県内の2地域（東かがわ市、小豆）において、小・中学校と適応指導教室（教育支援センター）、及び専門家との協力による、不登校への対応に関する望ましい連携の在り方について具体的実践を通じた研究を進めている。その研究結果については、研究冊子にまとめるとともに、県教育委員会（県教育センター）と本学部（附属教育実践総合センター）との合同の研究発表会を開催する予定である。

2 特別支援教育に関する研究プロジェクト

本研究プロジェクトに21名もの、学部、附属学校園教員、教育センター研究員のご参加をいただきありがとうございます。現在、ワーキンググループをつくって、研究プロジェクトを進行させています。

近年、軽度発達障害が目立っていますが、研究プロジェクトでは、軽度発達障害（特に高機能広汎性発達障害）の認知的側面に焦点をあてた研究を行っています。平成16年度は、「心の理論」課題、「役割取得能力」課題（いずれも他者の立場にたてるかどうかを検討する課題）を実施し、そうした能力と社会的スキル、社会的適応等との関係を検討します。また、繪内先生（本研究プロジェクトワーキンググループメンバー）の SST（社会的スキル訓練）教室にて、SST を通じて、上記の認知的側面の向上が図れるかどうかを検討します。

今後、先生方にご指導、ご協力をお願いすることもあるかと思えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 e-Learningシステムの開発に関する研究プロジェクト

本研究プロジェクトでは、研究対象を遠隔授業と研修の2つとし、昨年度の遠隔授業としては、免許法認定公開講座の実施を通して、遠隔教育システム・モデルを検討した。また、研修用システムについては、開発したインターネットと携帯電話を用いた研修システムを運用するための諸条件を検討した。

本年度はこれらを基に、本学では対面授業の代替となれる e-Learning システム・モデルを、また、研修用としては、香川県教育センターが実施してきた集合型研修の時間や費用を合理化する方向での見直しを図っていく目的で、集合研修と遠隔研修とを組み合わせ、状況に応じて柔軟に組み替え可能な形態がとれるシステム・モデルを、一方、附属学校においては、日頃の授業を補完できるシステム・モデルを構築することを目指す。なお、そのために必要なプレゼンテーション用データ、ビデオクリップ、印刷資料などのデータベース化に着手したい。

4 教育実践力の向上を図る教員養成・研修に関する研究プロジェクト

昨年度本プロジェクトでは、主に大学が取り組む教員研修に焦点をあてた研究を行った。2年目を迎えて次の3つの研究をすすめるべく検討している。

①教育実践力に関する理論的研究

文献、研究紀要等に分析検討による教育実践力に関する理論的整理を行う。

②教育養成に関する実践的研究

各附属学校園における教育実習生への評価から教員養成課程で培いたい教育実践力を追究する。

③教員研修に関する実践的研究

学習指導カウンセラー（大学教員）の派遣校における教員研修への関わりの実際の検討を通して、大学教員が現場の教員研修による教育実践力の向上に対してどのような貢献が可能でどのような課題があるかを追究する。

①については学部教員と附属学校教員のメンバー、②については学部教員と客員研究員（県教育センター）のメンバー、③については大学教員（学習カウンセラー担当者）を中心に作業をすすめる予定である。

※ 特別プロジェクト 教育評価に関する研究プロジェクト

学力評価に関する研究プロジェクト

昨年1年（8回開催）をかけて研究の視点を明確にしてきた本プロジェクトの今年の課題は、①学力評価理論の批判的研究、②学力評価の事例研究、③学力評価の臨床的研究である。年度待つにはその成果をまとめる予定である。

①は全国的な理論を批判的に考察し、学力評価の在り方を示す。②及び③は特に飯山北小学校における実践研究を取り上げ、学力評価論の意義と課題を解明したい。教科指導及び総合的学習など、全般に渡る事例を取りあげたい。特に2学期には一つの具体的な学習単元をめぐってそれを臨床的に追いかけて、学力評価の過程がどのように進められるのかを明らかにしながら、学力評価を实践過程に結びつけるための課題を考察する。なお、事例研究については、飯山北小に加えて、適宜附属学校及び公立学校における実践の成果を参照し、考察を深めることにしている。

学校評価に関する研究プロジェクト

本研究プロジェクトでは、県内の全公立小・中学校の校長先生方を対象に、学校評価と学校改善に関するアンケートを実施することが今年度の第一の目標です。昨年度から時間をかけて検討してきたアンケートが、先日ようやく完成し印刷も済みしました。7月の校長会のお場をお借りして配布する段階に至っています。

次に、回収されたアンケートを丹念に分析していくことが第二の目標です。アンケートでは学校評価に対する考え方（学校評価観）を問うています。この学校評価観と教育観や学校観、あるいは学校改善の進展状況とをクロスさせることで、学校評価観のタイプだけでなく、学校評価観を形成している要因や学校改善との関連性も探りたいと考えています。

さらに、アンケートの結果を研究紀要だけでなく、公開講演会等の形でも現場の先生方にお伝えしていくということを第三の目標と考えています。

公開講演会実施報告

この公開講座は「教育職員免許法施行規則」第43条の3に基づくものであり、小学校、中学校、高等学校のうちいずれかの1種免許状を取得し、教職経験を有するものに対して、専修免許状取得のための学修の機会を提供するために開設しているものです。今年度は、以下の日程で岐阜大学免許法認定公開講座を香川大会場として実施しています。

開設科目名	講師名	日程
教育実践学特論	吉田和子（岐阜大学）	6/5（土）、6/6（日） 7/3（土）、7/4（日）
学校心理学特論	橋 良治（岐阜大学） 大井修三（岐阜大学） 山崎捨夫（岐阜大学） 別府 哲（岐阜大学）	6/19（土）、6/20（日） 6/26（土）、6/27（日）
教育情報論	村瀬康一郎（岐阜大学） 加藤直樹（岐阜大学）	8/24（火）～8/27（金）

教育実践集中講座（平成16年度第1回） 報告

平成15年度に引き続き、教育実践総合センター客員教員による標記講座が実施されました。今回は次のテーマと趣旨で。宮脇啓客員教授（高松市立桜町中学校教頭）と小柳和代客員助教授（香川県教育委員会義務教育課主任指導主事）による下記5回の講座が実施されました。

テーマ：学級担任の四季～子どもの笑顔は教師の喜び～

趣 旨：「学級づくり」のための基礎的・基本的な知識や技能について、演習を中心に学習を進める。また、ペアやグループでの活動を取り入れ、より人間関係（コミュニケーション）を密にした効果的な指導法を考える。

日 時	場所	内 容
6月 2日（水） （13:20～16:20）	教授法演習室	① 「なかよし」になるテクニック（基本編） —授業におけるミニゲームを通して— ② 学級担任の四季 ～春～ —「学級づくり」をスタートしよう—
6月 9日（水） （13:20～16:20）	教授法演習室	① 「なかよし」になるテクニック（応用編） —インタビュー実践を通して— ② 学級担任の四季 ～夏～ —学校行事で完全燃焼—
6月15日（火） （13:20～15:20）	411教室	学級担任の四季 ～秋・冬～ —教師が変わると、子どもが変わる—
6月23日（水） （13:20～15:20）	教授法演習室	魅力あるリーダー【教師心得】 —子どもたちや保護者の声から—
6月26日（土） （13:00～17:00）	教授法演習室 ・集団治療室	仲間づくり（ゲームを通してコミュニケーション） —レクリエーションあれこれ—&ディベート—

平成16年度 第1回教育実践総合センター研究会報告

テーマ：教員養成カリキュラムの改革を展望する

香川大学教育実践総合研究第8号（2004年3月）では、「教員養成のカリキュラム研究」について特集を組んでいる。この特集は、昨年度開催しました教員養成モデルコアカリキュラムに関する教育実践総合センター研究会の報告・討論を基礎に編集したものである。

本年度第1回目のセンター研究会では、この特集を踏まえて、昨年に引き続き、教員養成カリキュラムの問題をとりあげる。大学も法人化され、教育学部においても具体的なカリキュラム改革に着手しなければならない状況を迎えている。しかし、そのカリキュラム改革は決して受動的なものであってはならない。教育学部と附属学校園が連携して、これからの教員養成カリキュラムを実効のあるものに、主体的にデザインしていくことが必要である。そのことをめぐる意見の交流の場となることを期待して企画した。

日時 平成16年6月18日（金）17：00～18：30

場所 教授法演習室

まず、センター長の挨拶に続いて、「これまでの研究プロジェクトの経緯並びに教育実践総合研究特集号論文の概要」について田上 哲（教育実践総合センター）が報告した。その後、指定討論者の大西孝司氏（学校教育）、安東恭一郎氏（美術教育）にご発表いただいた。

大西氏は、まず、統計資料をもとに「教員の資質は育成されるものか」、「教育学部に何が求められているか」について述べ、「教育学部の意味はどこにあるのか」、「カリキュラムをどうつくっていくのか」について考察し、カリキュラム改善の方向として、修正か整理統合か再構築かという視点を提出した。

安東氏は、まずモデル・コア・カリキュラムに見られるような大幅な改革は現状で不可能でないかと述べた。その上で、免許法改正善のカリキュラムとモデル・コア・カリキュラムならびに現行カリキュラムを図示して、現行カリキュラムの特色と成果を検討し、課題並びに課題の乗り越え方について考察した。

その後の討論を通して、カリキュラムを改革・改善していくために、現行のカリキュラム・科目レベルで検討するだけでなく、現実に行われている授業のレベルで学生の学びの内実を精査し、教員養成の目的を果たすよう授業を改善していくことも平行して行うこと、そして大学教員の協働、教員養成の目的・理念の共有化を図ることが必要であることが確認された。

（文責・田上）



寄贈図書(04/03~04/06)

- 研究紀要 第50号 広島大学附属中・高等学校
 日本における授業研究の方法論の体系化と系譜に関する開発研究 学研究会補助金研究成果報告書(松下佳代)
 教育実践研究 第18号 高知大学教育学部附属教育実践総合センター
 文部科学省研究開発学校スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告書 平成15年度第1年次広島大学附属高等学校
 情報教育実践ハンドブック第5集 鳴門市教育用コンピュータ活用推進協議会鳴門教育大学情報教育研究会
 平成15年度フレンドシップ事業実施報告書 鳴門教育大学
 鳴門教育大学学校教育実践センター紀要 No.18, 2003 鳴門教育大学 学校教育実践センター
 琉球大学教育学部教育実践総合センター紀要 第11号 琉球大学教育学部附属教育実践総合センター
 佐賀大学教育実践研究 第20号(平成15年度) 佐賀大学文化教育学部附属教育実践総合センター
 平成15年度放課後学習チューター 佐賀大学実施報告書 佐賀大学文化教育学部
 平成15年度佐賀教育実践懇話会~学生教育ボランティアの可能性~ 佐賀大学文化教育学部附属教育実践総合センター
 IMETS No.151 財団法人 才能開発教育研究財団
 IMETS No.152 財団法人 才能開発教育研究財団
 情報処理センターブルティン 第9号 北海道教育大学
 学部・附属教育実践研究紀要 第3号 山口大学教育学部
 教育けんきゅう 第31号 広島県立教育センター
 教員研究シリーズ(51)教育指導の実践的研究 広島県立教育センター
 教育実践総合センター研究紀要 第13号 奈良教育大学教育実践総合センター
 千葉大学教育実践研究 第11号 千葉大学教育学部附属教育実践総合センター
 静岡大学教育実践紀要 No.10 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター
 平成15年度静岡大学教育学部フレンドシップ事業報告所 静岡大学教育学部
 教育臨床事例研究 10 愛知教育大学教育実践総合センター
 教育臨床事例研究 11 愛知教育大学教育実践総合センター
 教育臨床学研究 5 愛知教育大学教育実践総合センター心理教育相談室
 愛知教育大学教育実践総合センター紀要第7号 愛知教育大学教育実践総合センター
 北海道教育大学教育実践センター紀要 北海道教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 教育実践総合センター紀要 第3号 長崎大学教育学部附属教育実践総合センター
 岡山大学教育実践総合センター紀要第4巻 岡山大学教育学部附属教育実践総合センター
 実技教育研究 第18号 兵庫教育大学学校教育学部附属実技教育研究指導センター
 「子どもとのふれあい体験」実施報告書平成15年度 富山大学教育学部附属教育実践総合センター
 富山大学スクラムプラン・学校バリアフリーへの挑戦・2003 富山大学教育学部・附属学校園
 人権・同和教育における地域社会貢献 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 「目標に準拠した評価のよりよき定着を求めて」「評価と指導の一体化を考える」
 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 「青年期におけるストレスとコーピング」 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 授業実践ハンドブック・教科内容研究特集・(第2集) 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 教員養成大学としての教育のあり方(5)第1分冊福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 教育実践研究第12号 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 平成15年度研究実習報告書 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 フレンドシップ事業報告書 弘前大学教育学部
 研究員紀要 第2号 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター
 学校教育実践学研究 広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター
 ゆかいな土曜日実施報告書 広島大学教育学部フレンドシップ事業実行委員会
 兵庫教育大学フレンドシップ事業 研究協議会報告書 兵庫教育大学

臨床教育実践研究センター紀要第7号 京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター
 研究紀要 第17号 山口大学教育学部附属教育実践総合センター
 島根大学教育臨床研究2003 vol.03 島根大学教育学部附属教育臨床総合研究センター
 島根大学教育学部フレンドシップ事業 シンポジウム報告書 かかわりあうこころー地域
 の子どもたちから学ぶー 島根大学教育学部附属教育臨床総合研究センター
 FDセミナー「教員養成の教育」と大学 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 教育実践総合センター年報 第1号 横浜国立大学教育人間科学部附属教育実践総合センター
 子どもの現在～1985年・2003年の鳥取県大栄町調査より～ 鳥取大学地域科学部学部附属教育実践総合センター
 2003年度 フレンドシップ事業報告書 鳥取大学地域科学部学部附属教育実践総合センター
 教育実践総合センター研究年報 第13号 鳥取大学地域科学部学部附属教育実践総合センター
 山形大学教育実践研究 第13号 山形大学教育学部附属教育実践総合センター

活動日誌(04/03～04/06)

- 4月12日(月) 第1回専任会議
- 4月14日(水) 第1回フレンドシップ実施専門委員会
- 4月26日(月) 第8回学校評価に関する研究プロジェクト
- 4月28日(水) 第1回企画推進委員会
- 4月28日(水) フレンドシップ事業：オリエンテーション
- 5月5日(水) 第23回不登校に関する研究プロジェクト
- 5月12日(水) フレンドシップ事業：事前指導
- 5月17日(月) 第9回学校評価に関する研究プロジェクト
- 5月18日(火) 第8回学力評価に関する研究プロジェクト
- 5月19日(水) 第2回専任会議
- 5月21日(金) 第24回不登校に関する研究プロジェクト
- 5月24日(月) 第1回管理委員会
- 5月27・28日 附属坂出小学校研究発表会
- 6月2日(水)～ 教育実践集中講座(全5回)
- 6月4日(金) 第8回教育実践力に関する研究プロジェクト
- 6月5・6日 フレンドシップ事業：野外体験活動(五色台少年自然の家)
- 6月5・6日 免許法認定公開講座
- 6月9日(水) 第2回フレンドシップ事業実施専門委員会
- 6月10日(木) 附属坂出中学校研究発表会
- 6月11日(金) 第1回教育実践総合研究編集会議
- 6月18日(金) 第1回センター研究会
- 6月19・20日 免許法認定公開講座
- 6月23・24日 フレンドシップ事業：野外体験活動(屋島少年自然の家)
- 6月25日(金) 第2回教育実践総合研究編集会議
- 6月26・27日 免許法認定公開講座
- 6月30日(水) 第10回学校評価に関する研究プロジェクト
- 6月30日(水) 平成15年度学部研究開発プロジェクト研究成果報告会
- 7月2日(金) 第9回教育実践力に関する研究プロジェクト
- 7月3・4日 免許法認定公開講座
- 7月7日(水) 第2回企画推進委員会
- 7月8・9日 フレンドシップ事業：野外体験活動(直島国際キャンプ場)
- 7月12日(月) 第2回管理委員会
- 7月13日(火) 第9回学力評価に関する研究プロジェクト会議

【センターからのお知らせ】

教育実践総合研究第10号原稿募集

『香川大学教育実践総合研究』第10号は、11月30日（木）原稿受付締切です。奮ってご投稿されるのをお待ちしております。

なお、投稿予定者は、予めセンター事務室までお申し込みください。

H16年度購入雑誌について

平成16年度に教育実践総合センターで購入する雑誌及び定期刊行物は以下のとおりです。是非ご活用ください。

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| ①Cognition and instruction | ②Educational technology |
| ③Educational technology research | ④Journal of teacher education |
| ⑤Learning and instruction | ⑥教員養成セミナー |
| ⑦月刊学校教育相談 | ⑧月刊生徒指導 |
| ⑨現代教育科学 | ⑩児童心理 |
| ⑪授業研究21 | ⑫総合的学習を創る |
| ⑬道德教育 | ⑭特別活動研究 |
| ⑮四国新聞 | ⑯日刊工業新聞 |
| ⑰日本教育新聞 | ⑱初等教育資料 |
| ⑲中等教育資料 | ⑳視聴覚教育 |

センターHPを更新しました

3/25にリニューアルしたセンターのホームページを、随時更新しています。今回はセンター研究会報告、行事予定を更新しました。センターニュースもHP上で見られます。是非ご覧ください。

香川大学教育学部附属教育実践総合センターニュース

No. 19

発行日：平成16年7月21日

編集発行：香川大学教育学部附属教育実践総合センター

代表者 湯浅 恭正

URL <http://edu-center.ed.kagawa-u.ac.jp/~j-cen> E-mail : jcen@ed.kagawa-u.ac.jp

[〒760-8522 高松市幸町1-1 Tel. 087-832-1683 Fax. 087-832-1689]
